



次世代を担う子どもたちのために！！ 「知の拠点」「情報の拠点」としての新図書館をつくります

なぜ、新図書館が必要なのか？

図書館は「知の拠点」「情報の拠点」として重要な施設です

◆充実した図書館は、教育・文化のまちに不可欠

図書館の使命…「知識」「知恵」を得て「心」を養う

- ・ 市民が生涯学習
- ・ 市民への生活文化情報の提供
- ・ 幼児、小中高生が学習
- ・ 歴史、文化、芸術など郷土資料の収集と発信

中央図書館の現状…築30年を経て、多様化する市民ニーズに対応できない。

- ・ 閲覧室等が十分になく、子ども読み聞かせや小中高生の学習が十分にできません
- ・ 専門書も少なく、蔵書14万冊で満杯です
- ・ 配本サービスなど地域の公民館図書室との連携が十分にできません

図書館を望む、根強い市民要望があります

・ 団体からの建設推進要望

中津川市読書サークル連絡協議会・中津川市文化協会・中津川市PTA連合会
中津川新町商店街振興組合・中津川市商業振興連盟など

- ・ S63年 新図書館建設の請願 6,016名
- ・ H21年 建設推進市民署名 3,005名（恵北地区も含む）
- ・ ワンコイン募金 783名（約10万9千円）含め合計約1千150万円の寄付金（H23.6.10現在）

なぜ、今つくるのか？

根強い市民要望に対して財政上の理由で先送りされてきましたが、有利な補助金を使って少ない負担で建設できるようになりました

◆補助金の活用期間はH24まで。今がラストチャンスです！

・ H21年から中心市街地活性化基本計画に位置づけた図書館は補助金の活用が可能に

これまで 100%市費 18.1億円

⇒ 断念

建築 15.5億円	土地 2.6億円
--------------	-------------

今回 26%市費 4.7億円

⇒ ラストチャンス！

県 2.6億円	国 10.8億円	市 4.7億円
		26%

ほかに借入金にかかる利子は約1億円になりますが、H18から借金の返済の前倒しで約3億円の利子を節約しており、十分にまかなうことができます。

なぜ、まち中につくるのか？

まちに賑わいを呼び戻します

まちの顔をシャッター街にしない！！

◆中津川のまちは広域にわたる地域の顔。その顔の元気が必要です

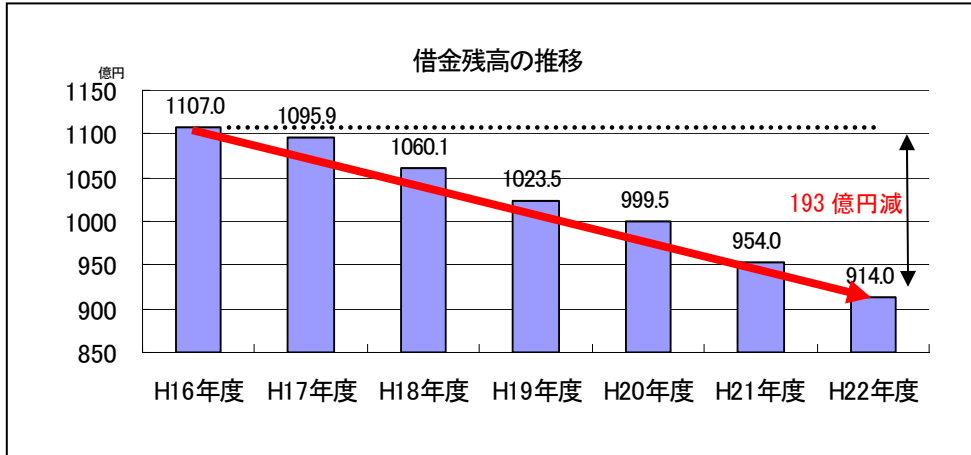
- ・ 新図書館は、まちなかの「創造情報館」として、さまざまな人が交流する場、まちのにぎわいをつくります。
- ・ 東海地方で最近7年間に建設された図書館は年間人口の3～8倍の人が利用されています。中津川市に当てはめると、少なくとも年間約30万人の利用が見込まれます。

お金は大丈夫？

図書館建設は、市の財政を悪くすることはありません

◆学校耐震化などの仕事をしながら合併後6年間で借金 193 億円減少

- ・「借金を返す以上に借りない」などの**5つの財政健全化方針**のもとで、健全財政を確保しています。
- ・新図書館の建設はこの方針に沿って行いますので、市の負担は実質 4.7 億円で済み、**財政を悪化させることはありません。**



小中学校耐震化、全市光ファイバー網整備などのやるべき仕事をやりながら借金を 193 億円減らしました

他の事業は大丈夫？

医療、介護、子育て支援などをおろそかにしません



医療、介護、子育て支援のうち3事業だけの1年分と比べてみると…

- ・**市民病院**では、お金をつぎ込めば医師確保ができるものではありませんが、**医師、看護師確保に約1億6千300万円**をかけています。(平成23年度当初予算・以下同じ)
- ・**高齢者介護**では、市内14箇所の在宅介護支援センターに**約4千900万円**をかけています
- ・**子育て支援**では、子どもの医療費無料化に**約3億円**かけています

どんな図書館にするの？

「知りたい」「交流したい」「発信したい」人が集まる「創造情報館」

- ・「読み、学び」だけでなく、みんなの「知りたい」に応えます
- ・くつろげる、会話が生まれる、いつも楽しくなる空間づくりと、まちなかの立地を活かし、商店街や地元の人たちと一体性のあるにぎわいを創出します
- ・多様な情報源から、新たな成果を創(造)り出し、電子書籍や教材、観光など、様々な形で発信します
- ・また、地域の図書室は計画的に整備を進め、蔵書、本の配送、ネットワーク等を充実し、地域における図書館サービスも向上させます